

70になった3年2"白血病にたどり着いたと中溝さんにおっしゃっていますが、血小板が正常値の半分以下になると出血も大変だったのに、諦めずに、治療や検査に取り組んでいる姿をお話して下さった。強い人だと感じた。私だったら、もう死ぬのかと毎日、何回も考えるだろうし、ずっと泣いていると思うからこそ、(必ず)死する時の写真の笑顔は本当にすごいと思った。また、家族や友人に頼らずに自分で何とか生きていくと決意したことや、本当に周りのことも考えて、自分が今の状況で一番大変で大事な時期に自分以外のことを考える人は、敬服していると思うから、かっこいいと思った。中溝さんの話を聞いて、私も看護師としてこれから出会う患者さんと一生懸命に一緒に生きていこうと思った。そのためには、今回白血病について下は中溝さんから青木先生からもわかりやすく学ばせてもらったように、他の疾病、患者や家族の気持ちについて学んで生かしていく必要があると考えた。中溝さんが"生きていく間に良い時間を過ごす"とおっしゃっていたのを聞いて、今しか看護の勉強できない、今できることを精一杯やり、立派な看護師になって、悔いのない人生をおくりたいと思った。この私も病気になるかわからないから、今の環境に感謝して一生懸命生きていこうと思った。

中溝さんにとって、「看護師さんは家族や友人よりも頼りになった。」という言葉がとて、印象に残った。それくらい治療に対して不安や葛藤があったんだなと感じた。これまでの学習で、患者さんに寄り添うのが看護師だということを学んできたが、今回のお話を聞いて、当事者の方からの声を聞くと、寄り添うというのはただ単に寄り添うのではなく、言葉にかけてもらったりとそれが安心感や治療を頑張る糧につながる。生きる希望を身にしみて感じる、そのおかげでなれたと学ばせていただいた。何かの病気になることは、ショックも大きいけど、何で自分はこの病気になってしまったのかと悔しい気持ちもあるけど、だから、余計、その現実から逃げたくなるかもしれないけど、そこから逃げずに生きていこうという選択肢をとった行動に、中溝さんは本当に心が強く頑張っている姿にすごく感動した。その行動の元には、青木先生の存在も大きいんだなと感じ、看護師になりたいという思いが一層強くなった。自分も誰かの心の寄り添うとみてもらえるよう看護師になりたい。